



キ



リ



ス



ト



者



学



生



会



KGKしよう！

学内活動シリーズ②

グループ
聖書研究

学内活動シリーズ2 グループ聖書研究

目次

1 グループ聖研は何のためにするのか	2
2 グループ聖研とは何か	5
3 グループ聖研をするためには何が必要か	7
4 グループ聖研の進め方	9
5 司会者の準備	11
6 司会者の心得	14
7 クリスチャンの態度	17
8 自分で質問を作るには	19
9 Q & A 困ったときのケーススタディ	23

K G K しよう！学内活動シリーズ2 グループ聖書研究

初版 1996年7月23日

改訂版 2010年1月20日

発行者 キリスト者学生会主事会

発行所 キリスト者学生会

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル3F

TEL. 03-3294-6916

FAX 03-3294-6050

e-mail office@kgkjapan.net

100円

どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。
あなたのことばに従ってそれを守ることです。

詩篇 119 篇 9 節

グループでディスカッションしながら聖書を学ぶスタイルの「グループ聖書研究」、略して「聖研」は、KGK 運動の学内活動の中で、中心的な活動の一つです。

I

グループ聖研は 何のためにするのか

「聖研をやりたい！」…それは何のため？「聖研をやらなくちや」…それは誰のため？ あなたは何のために、誰のために聖研をやるようとしているのでしょうか。何となくクリスチャンらしい活動だから？先輩から引き継いだ伝統だから？他の学校でもやっているから？

グループ聖研は何のためにするのでしょうか？

「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」（ヘブル 4 章 12 節）

神のことばである聖書は、人の心に入り込み、働きかけ、その人を変える力があります。聖書そのものが生きているのです。私たちは、そのみことばによって神のものとされました。その私たちがクリスチャンとしてこの世で生きていくためには、当然みことばによって日々養われることが必要です。そして混乱したこの時代にあっては、私たちは自分の持っている信仰を正しく学び、他の人に説明する準備をしていなくてはなりません。弁明することに強くなりましょう。あなたはなぜ、自分の信じているものが真理だと言い切れるのですか。他の宗教では本当に救われないのですか。あなたの信じているものは、あなたに何をしてくれているというのですか。

聖書を開いて、目を覚ましましょう。聖書に教えられながら、立って

るところから落ちないようにしましょう。私たちは、唯一なる神に召し出された者たちです。そして父なる神のみことばは、いつも私たちの近くにあるのです。

聖書が力を持っているのは、未信者に対しても同様です。私たちは聖書を読む場所に、未信者の友人を誘うことができます。生ける神のこぼをあなたの友人があなたに誘われて読む。それは神が人の心を捉える機会を、あなたが提供しているということなのです。これは私たちキリスト者にとってすばらしい特権です。みことばそのものがあなたの思いを超えてその人の心を捉えていくでしょう。それを見てあなたは、神が確かに生きておられることを新たに実感するでしょう。

創造者なる神が、聖書を通して私たち造られた者に語りかけます。私たちの存在を根底から揺り動かす力強いみことば。そして深い愛の御声。この生ける神の力を信じないなら、聖書を読むことは趣味の読書以上の価値を持ちません。生ける神への信仰、それこそが私たちの聖研を行う最も大切な動機なのです。

しかし、どうして聖研をグループにするのでしょうか。

グループで話し合いながら、分かち合いながら聖書を読むとき、私たちは聖書を知ると同時にお互いを知ることができます。私たちの関心は聖書に向かうと同時に、相手にも向けられるのです。私たちに隣人への愛があるとき、それも聖研を行う大きな動機となります。聖研を通して私たちは親しくなり、お互いのこだわりと弱点に気づきます。話し合うほどに共有できるものが増えてきて、ぶつかり合うほどに改めて相手と自分との違いを突きつけられます。聖書のメッセージを中心にして話し合うことで、(もし正直に話し合うならば) 私たちは互いの罪と不信仰を暴露し合うことになるでしょう。そして読み進めるときに、神の赦しをすべてのメンバーが受けなければならないことが、いよいよ明らかになるでしょう。そして私たちが赦し合い、愛し合うことを学ぶためには、いっしょに聖書を開かずにはいられなくなっていくでしょう。

「…私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。」

(第一ヨハネ 4章7節)

私たちが愛し合うとき、その業は自分のものではなく神から出たものとなります。聖研の場にキリストのかおりが漂い始めます。「神は愛である」という証しを、私たちの口ではなく、聖研の雰囲気語るようになります。これは未信者にとって、「この人たちはイエスの弟子だ」ということを最も確かに証しするものです。

私たちに愛が与えられるように祈りましょう。グループで聖研を行うことが、隣人への愛の現われになるように求めていこうではありませんか。

2

グループ聖研とは何か

グループ聖研は説教や講演会ではありません。参加者全員が話し合いに参加して、聖書について自由に自分の考えを言い合う場です。有益なディスカッションのために質問を用意し、参加者が交替で司会を務めます。司会者は事前の準備をしますが、当日は注解書や参考書などは開きません。私たちの手元にあるのは聖書だけです。そして、使うのは自分の頭と心です。

グループ聖研は、原語からの精密な釈義を目標としてはいません。細かいことよりも、その聖書箇所のポイントをつかみ、実際の自分の生活に当てはめて考えることを大切にしています。用意された質問を手がかりにしながら、内容をつかみ、それに対するお互いの本音を話し合えるようになると、グループ聖研はおもしろくなります。形式的なありきたりの結論ではなく、自分の現実を分かち合う生きた交わりになるからです。聖研にクリスチャンではない人がいることによって、学びはさらに新鮮になります。クリスチャンが見落としがちな、当たり前だと思っている事柄にも新しい視点が与えられます。そしてクリスチャンは、彼らに自分の信仰を一方向的にではなく、聖書を示しながら説明することができるのです。

聖書を学ぶことによって「イエス・キリストはどのような方か」を私たちは知ることができます。また、グループで学ぶことによって「お互いがどのような人間か」を知ることができます。さらに、同じメンバーで学びつづけていくと、「神がお互いの中にどのように働かれているか」「神によってお互いがどのように変えられているか」を知ることができるのです。グループ聖研は、そこに集まる人の経験や知識の分かち合いによって、聖書の世界を現代に再現する、新しい発見と驚きにあふれたものなのです。

主はあなたに必要なものをすべて知っておられます。そしてそれを与えようと、あなたの祈りを待っておられます。私たちは、信仰と愛を主ご自身からいただいて、みことばの深みにこぎだしていくのです。

3

グループ聖研をするためには 何が必要か

1. 聖書

聖書を参加者に1冊ずつ用意しましょう。そして、今日は聖書のどの箇所から学ぶのかをあらかじめ決めておきます。求道中の人がいる聖研であれば、是非福音書から学ぶようにしましょう。福音書には、イエス・キリストと出会った人々が、何を求めているのかを知ったのか、そしてキリストと出会ってからどのように変えられたのかが書いてあるからです。

2. 質問

聖書の内容を正しく読みとり、流れに沿ったディスカッションをするために、質問を用意します。自分で作ったり、既製の手引書を使います。参加者全員に用意します。

3. 参加者

4～7人がちょうど話をしやすい人数です。もし集まる人数が多いなら、グループをいくつかに分けるとよいでしょう。同じ時間にいくつかのグループで同じ聖研をしてもいいし、別々な時間に別々の場所で行う方法もあります。

4. 司会者

司会者がどれだけ準備をしてきたかが、聖研の充実度を左右します。クリスチャンのメンバーが交替で司会をします。

5. 場所

あいている教室や、部室など、落ちつける場所にしましょう。学校の

中に学生が使えるスペースがない場合には、クリスチャンの先生の研究室や、近くの教会をお借りできる場合もあります。趣旨を説明してお願いしてみてもどうでしょうか。あるいは個人の部屋でも屋外でも集まる場所を工夫してみましょう。

6. 時間

定期的に1時間半くらい時間をとるのが理想的です。長くなりすぎると集中できなくなりますし、短すぎるとじっくり考えたり話し合うのが難しくなります。どうしても時間がとれない場合には、質問の数を減らして、ポイントを絞ります。

7. 広告

決まったメンバーだけで行うのでなければ、時間、場所、内容などをわかりやすく書いたポスターなどを貼ったり、チラシを配ったりしましょう。すぐに反応がなくても、聖書研究会の存在を学内の人に知ってもらうこと自体が大切なことです。今は積極的な求道心がなくても「なにか機会があれば行ってみよう」と思う人もいますからです。

4

グループ聖研の進め方

さあ、では実際の聖研ではどのようなことが起こるのでしょうか？

【聖研全体の組み立て方】

- ・自己紹介をする

新来会者がいる場合には、全員で簡単に自己紹介をしましょう。この聖研は、みんなで聖書を読んで自由にディスカッションをするものであることを、説明するといいいでしょう。

- ・祈り

司会者かクリスチャンのメンバーが、聖書を学ぶために神の導きを求めて短く祈ります。

さて、いよいよ聖研そのものを始めます。

1. 導入

聖書を開く前に、その日のテーマについて考えることのできるような質問を用意します。たとえば「イエスは人の人生を変える」というテーマであれば、「あなたが自分の生き方を変えられるような影響を受けたのはどのような人でしたか」という質問をして、自分の経験を話してもらいます。あるいは、テーマについて司会者から簡単な説明をするだけでもよいでしょう。導入のねらいは、それについてどんな答えが書かれてあるのか、聖書に対する期待をみんなで持つことです。

2. 背景説明

その日読む聖書の箇所は、どのような前後の文脈の中にあるのか、その人物はなぜこのような態度をとっているのか、その箇所だけ読んでわからないことについて説明します。その場面の背景を説明することで、みことばがより現実的な臨場感を持つようになります。司会者はあまり詳しい説明をする必要はありません。また、調べたことをすべて披露することもやめましょう。ここでは簡単な説明で終わらせます。聖研の途中で質問が出たらそれに答えていくかたちにした方が、参加者が混乱しません。

3. 聖書朗読

段落ごと、数節ごとに区切って、参加者で順番に読みます。全体が短い箇所の場合は、一人の人にまとめて読んでもらった方が、内容に集中できます。セリフの多い箇所ときには、配役を決めて読み合わせてみるのもいいでしょう。

4. 質問の展開（観察・解釈の質問）

用意した質問を読み、それについて自由に意見を言ってもらいます。司会者が質問を読んでもいいし、参加者が順番に質問を読んでもいいでしょう。意見がなかなか出にくいようなら、質問の言い方を変えてみたり、繰り返してみたりしましょう。

5. 適用（適用の質問）

観察・解釈の質問を通して読みとってきた内容を、自分自身の生活に当てはめて考えます。話し合いの発展に役立つ質問をいくつか用意しておきましょう。そして最後に、その日学んだこと、発見したことを各自に言ってもらるか司会者がまとめるかをして、感謝の祈りをささげて聖研を終わらせます。

6. 次回の確認

次回の日時、場所、聖書箇所、司会者の確認をします。

5

司会者の準備

既製の手引書がある場合でも、司会者は必ず準備の時間をとって下さい。10分程度の準備で聖研になだれ込んだりすると、自分の司会に自信がもてず、落ちつかない聖研をすることになってしまいます。

1. 祈る

祈りなしで、主のみことばに関わる恵みを受けることはできません。司会者は、聖研で読むみことばを参加者の誰よりも深く学ぶことのできる特権を与えられています。準備が祝福されるように祈りましょう。そして聖研そのものが、聖霊の働きによって、参加者が真理を自由に分かち合うときになるように祈りましょう。

2. 読む

充実した聖研をするためには、司会者自身が「この聖書の箇所はおもしろいぞ」と思っていることが大事です。自分自身がまずみことばに感動することです。そのためには、とりあえず準備のことは考えずに素直にその箇所を読みましょう。自分に神は今何を語っているだろうか、ただそれだけを考えながら読むのです。同じ箇所を何回か繰り返し読んでみましょう。このとき、参考書には手を伸ばしてはいけません。あなたの心だけで読んで下さい。

3. 調べる

読んでみて、意味がわからなかったところや、自分では説明できないことばなどをチェックします。それを、聖書辞典や注解書で調べて書き留めておきます。自分の家に参考書がない人は、教会で調べるとよいでしょう。特に求道者が聖研に参加する場合には、当然知っていると思われるような

ことでも、わかりやすく説明できるようにしておきましょう。知らないことばやわからない話がいくつも出てくると、誰でも理解しようとする気を失います。司会者は、グループの中で一番初心者の人に合わせて、説明できるようにしましょう。

たとえば、

- ・登場人物：どのような人物が登場しているか。
- ・背景：どのような事件の後か、前か。どのような考えや教えに基づいた出来事か。
- ・地理：場所はどこか。どこに行く途中なのか。
- ・生活習慣：この箇所では、何が当たり前で何が当たり前でない出来事なのか。
- ・語句：この言葉の意味は何か。

4. テーマの明確化

この聖書箇所から、何を学ばよいか、参加者にどのようなことを考えてほしいのか、テーマを確認します。それを自分のことばで表題として書いてみます。この表題は、参加者に公表する必要はありません。司会者自身にとって、「今日は何を学ぶつもりだったのか」を意識して、聖研を導くための手がかりになるものです。

5. 質問の吟味

すでにある質問を読んで、自分ならどう答えるか、いつも参加しているあのメンバーならどう答えるか、を考えます。初めて来た人はこの質問にどんな反応をするでしょうか？ 質問の意味がすぐにわかるでしょうか？

答える気になる質問でしょうか？参加者にとってわかりにくい質問だと思ったら、意味を変えずにわかりやすい表現に直してみましょう。学生同士の聖研の雰囲気は、学生のあなたが一番よく知っているはずです。どんな言い回しだとわかりやすいかとか、こういう言い回しは反感を招くとか、あなた自身の感性で質問をよりよいものに変えていって下さい。また、質問が多すぎる時は省きます。その際、聖研全体の流れが壊れないように、どの質問を省くべきかよく吟味しましょう。

質問は主として3つの種類があります。

1. 観察：事実として何が書いてあるか
2. 解釈：それはどのような意味か
3. 適用：自分にどのように適用すべきか

良い質問の規準になるのは以下のようなことです。

1. 簡潔である：何を言っているのかすぐわかる質問。あいまいで意図がよくわからなかったり、表現が複雑だったりしないもの。でもばかみたいに簡単すぎる質問では、かえって誰も答えてくれません。
2. 考えることを促す：答えがすぐわかる質問ばかりだと、ただの誘導尋問になってしまいます。書いてあることの本当の意味は何なのか、自分で解釈を考えさせるような質問だと、おもしろいディスカッションができます。
3. 重要なポイントを引き出す：枝葉末節にこだわるような質問は避けます。みことばが本当に伝えようとしていることを読みとることを優先させましょう。
4. 聖書の箇所に沿っている：その箇所を読んだだけでは答えられないような質問は参加者を混乱させます。また、何箇所も他の聖句を引くようなこともやめた方がよいでしょう。

それぞれの質問にどれぐらい時間をかけるべきか、時間配分を考えておきましょう。読んですぐ答えられる質問もあれば、少し時間をかけないと答えられない質問もあります。参加するメンバーを思い浮かべながら、準備をしましょう。

準備が終わったら、愛と理解をもって司会をできるように祈り、期待して聖研を待ちます。

6

司会者の心得

司会者の役目は、質問を出して話し合いを進めることにあります。答えることはグループにまかせます。

1. 司会者中心にならないように気をつける

自分で質問して自分で答えることがないように、発言はなるべく控えるようにします。

2. 打ち解けた自然な雰囲気をつくるように心がける

心を開いて正直に話をしましょう。場合によっては、はじめにお茶を出すとかつろいだ雰囲気になるでしょう。

3. 質問に対して、いくつかの答えを聞くようにする

ひとつの答えが出たら、補足したい人がいるかどうかを聞きます。

4. 柔軟性のある話し合いにする

話の流れの中で、すでに次の質問の答えが出された場合には、その質問は省略します。参加者の中から新たな質問が出た場合には、それに答えたい人がいるかどうかグループに尋ねます。だれも答えることができなければ、次回までの宿題とします。

5. 「教師」にならない

各自の答えに対して「そうです」「ちがいます」と相づちをうって、教えるような態度を示してはいけません。聖書を読み違えている人には「ここで言っているのはそういうことですか」と、もう一度読み直すように勧めます。

6. 話し合いをまとめながら進める

話し合いの区切りごとに簡単にまとめて次に移ります。

7. 時間を守る

所定の時間に始めて終わるのは、司会者の責任です。みんなの時間を浪費しないようにしましょう。

8. 参加者に協力を求める

聖研は参加者全員が作るものです。学びを始める前に、次のようなことを参加者に話して協力を求めましょう。

●進め方のポイント●

1. 聖書から読みとる

権威は聖書にあります。「あの本に書いてあった」「先生はこう言っていた」「どこかで見たことがある」…ということはとりあえず置いておきます。注解書を読み上げるようなこともしません。とにかく聖書。聖書になんと書いてあるのか、そのことに集中します。脱線は無知な話し合いに発展しがちです。話が本筋からそれたら、盛り上がっていてもすぐに軌道修正します。「まずこの学びを終えてしましましょう。それについてはまた後で」と言って話をもとに戻します。

2. その箇所にとどまる

学んでいる箇所から離れないようにします。聖書のあちこちを開くと、聖書に慣れていない人を混乱させます。1回の聖研では、それほどたくさんのテーマを掘り下げることができません。その日の聖書の箇所にとどまって、そこから読みとれることを分かち合うようにしましょう。

3. 本音を出し合う

人は言いたいことをたくさん持っています。でもそれは聞いてくれる人にしか話しません。聖研では、お互いになんでも話せる雰囲気を作りましょう。そして話されることは、どんなことでもよく聞いて受け入れます。他では今さら聞けないようなことでも話せる場所にしましょう。実はそういう質問が、基本的で重大な問題である場合が多いのです。

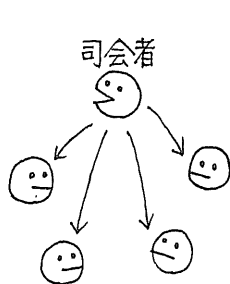
4. 自分の現実に引き合わせる

聖書と現実を切り離してはいけません。聖書に書いてあることは、今の自分に関係のあることです。もしここに書いてあることが本当ならどうするか。そのことをお互いに具体的に考えるようにしましょう。そのために私たちは聖研をしているのです。「聖書にはこんなことが書いてあるんだね」で終わらないようにしてください。まずクリスチャン自身が、自分のこととして真剣に考えて意見を言しましょう。求道者にとっては、クリスチャンのそのような聖書に対する態度が信仰の証しになるのです。

5. 全員が参加する

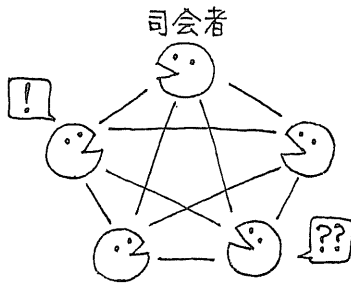
みんながお互いの顔を見ながら話せるように座りましょう。ノートは取らない方がかえって話し合いに集中できるでしょう。同じ人がしゃべり続けることがないように気をつけ、内気なメンバーや初めての人の発言を励まします。意見が出にくいようなら、質問の仕方を変えてみます。そうやって話し合いは、司会者中心ではなく参加者同士の自由なディスカッションになっていくのです。

好しくないかたち ① 理想的な話し合いは ...

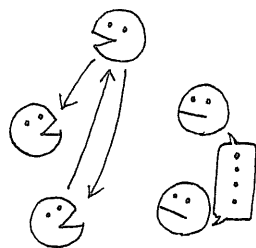


扇型

好しくないかたち ②



星型のかたち！



対話型

7

クリスチャンの態度

未信者の参加者がいるとき、クリスチャンが気をつけなければいけないことがあります。

1. キリスト教用語を使わない

普段クリスチャンが当たり前のように使っていることばでも、未信者には理解できない言い回しがあります。その箇所に出てこない専門用語は使わないようにします。

2. 教えようとしない

聖研では誰かが一方的に教える必要はありません。みんなでみことばから教えられるときだからです。クリスチャンはむしろ謙虚な聞く姿勢をもって、未信者の視点から教えられようとする心を持ちましょう。

3. 自己保身しない

わからないことを聞かれても、思いつきでごまかしたりしないようにしましょう。余計なプライドを持つことは、証しにおいて逆効果です。素直にわからないことを認めて、次回まで調べていきましょう。

4. 聖研のあとの交わりを大切にする

聖研の直後は、聖書や信仰について話がしやすいときです。一緒に食事をしたり、少し話をする時間をとるように心がけて、求道者の人とその日の聖研で考えたことを話し合しましょう。疑問があればそれに答え、聖研だけでは十分に伝えられなかったことを補足することもできます。その人の思いをよく聞いて、心が開かれていればはっきりとイエス・キリストの救いについて語り、悔い改めを勧めましょう。

未信者との聖研は、伝道の一部でしかありません。大切なのは日常生活における交わりです。せっかくの伝道聖研がその場だけのものになってしまうようにしましょう。

8

自分で質問を作るには

既製の手引書に頼らずに自分で質問を作るなら、聖書をさらに深く研究することができます。

1. 聖書の学び

まず、グループ聖研でとりあげる箇所を個人的によく学びます。それが質問作りの土台となります。

1. 聖書を読む

繰り返し注意深く読む。他の訳の聖書とも比較する。

2. テーマを読みとる

全体の中心的テーマを読みとる。自分のことばで表題をつける。

3. アウトラインを作成する

段落に分け各段落のポイントを挙げる。

4. 調べる

ここで初めて参考書を開く。わからない語句、節について聖書辞典や注解書で調べる。繰り返し出てくることばや、似た表現などに注意。

5. 聖書が書かれた当時の、著者の目的・意図を考える

全体および段落ごとの目的・意図を考えてまとめる。

6. 適用する

テーマを、今日の私たちの状況に適用する。

●旧約聖書や福音書の場合に気をつけること

観察

- ①登場人物はだれか。名前、地位、役割、他の人との関係について
- ②その出来事はどこで起きたのか。
- ③いつ起きたのか。
- ④その出来事はどのように展開していくか。
- ⑤なぜ起きたのか。
- ⑥以上を観察した結果として、出来事の核心は何なのであるか。回心、教え、いやし、奇跡、論争など

解釈

まずその当時の意味について考えるのがこの解釈の目的です。

- ①その出来事が起きた背景は何であったか。
- ②登場人物のことばや行動の意味は何か。
- ③出来事全体が教えることは何か。当時の人々は、どのように受けとめたか。
- ④その中で、神、イエス・キリスト、聖霊、また人間の性質について、知りうることは何か。
- ⑤この出来事で、神が目的としたことは何であるのか。

●パウロ書簡のような教理的な箇所の場合に気をつけること

観察

- ①著者は誰か。受け取り手は誰か。手紙を書いた動機は何か。
- ②段落ごとの主題は何か。各段落は互いにどのようにつながっているか。例証、引用、疑問、比較、対比など。また文中の命令、警告、約束を挙げ、その根拠と結果について考える。
- ③学ぶ箇所全体で、最も重要な真理、教えは何か。

解釈

先に述べた福音書などの箇所の留意点の他に、次のことも考えてみる。

- ①著者は受け取り手に対して、どのような気持ち、態度を持っている

か。

- ②その箇所で鍵となる語句、中心となる節は何か。その意味は何か。
- ③著者が伝えようと願っている真理は何か。それは受け取り手の生活にどのような影響を与えるか。
- ④神、キリスト、聖霊について、何を教えているか。

2. 適用

今まで学んできたことについてもう一度黙想し、自分自身に対する聖書の語りかけに耳を傾けます。次のような問いをしてみるのもよいでしょう。

- ①神（父なる神、イエス・キリスト、聖霊）について、私が新しく教えられたことは何か。私はどのように応答すべきか。
- ②悔い改めるべき罪は何か。そのために私は何をすべきなのか。
- ③私が従うべき命令は何か。それを私の実生活にどのように適用すべきなのか。
- ④私が模範とすべき実例は何か。また避けるべきことは何か。
- ⑤私に与えられている約束は何か。その約束を求める前に、私が自ら整えるべき条件は何か。
- ⑥未信者の友に対してどのように生活すべきなのか

3. 質問を考える

これまでの手順を踏んでから、はじめて質問を考えます。質問はそれぞれバラバラのものではなく、筋道を通ったものであるべきです。個人的に聖書から教えられた、最も中心的なテーマに焦点が合っていくような質問にしましょう。ここでよい質問が作れるかどうかはグループ聖研の鍵です。質問は前述のように3種類です。

1. 観察：事実をつきとめるもの。特に誤解の可能性のあるものを明らかにする。

「どう書いてありますか」「～を比較してください」「～のリストを挙げてください」

2. 解釈：聖書の意味について考えるもの。登場人物に自分を当てはめて考えてみる。

「どんな意味がありますか」「なぜだと思いますか」「何がわかりますか」「どう感じたと思いますか」「それについてどう思いますか」

3. 適用：自分の日常生活につなげる。みことばに対する具体的な応答。

「何を教えられましたか」「私たちはどう行動すべきですか」「考えるべきことは何ですか」

4. 質問を吟味する

(「5 司会者の準備」を参照してください。)

9

Q & A

困ったときのケーススタディ

聖研には他にどのようなやり方がありますか。

聖書研究にはいろいろな種類があります。形式で分けると、

(1) 講師を招いてその講義を中心とするもの。多くを教えられますが、一方的に受け取るだけのものに終わってしまいます。

(2) 学生がレポーターとなって発表するもの。注解書から学んだり、参考図書から引用したりします。レポーターの一人舞台になってしまうことがあります。

(3) 参加者でディスカッションをしながら進めるもの。これがこの冊子で紹介したグループ聖研です。(帰納法的聖研と呼ぶこともあります。)

目的で分けると、

(1) キリスト者の信仰の成長のためのもの(信徒聖研)、

(2) 未信者に対する伝道のためのもの(伝道聖研)があります。

どちらの場合も、単に知識のレベルでおわるのではなく、信仰と恵みを受けるもの、生活への適用をします。

聖研で沈黙が続いてしまったらどうしたらいいのでしょうか。

沈黙を恐れてはいけません。その沈黙の意味が何であるのかを考えます。メンバーは、言われた質問の意味がわからなくて答えかねているのかもしれませんが。その場合は質問を繰り返したり言い換えたりしてみます。また、質問について深く思いめぐらしているのかもしれませんが。そのときは焦ってしゃべり出さずにそのままもう少し

待ちます。単に答える気がなくて黙り込んでいる場合には、指名しましょう。

求道者が全然発言してくれません。逆にしゃべりすぎる人もいて、全体的話し合いにならないのですが。

はじめての人にも分かることばで話をしていますか。求道者にはとても入り込めないような難しい議論をしていませんか。グループの中に未信者が少なく、意見を出しにくいのかもかもしれません。答えやすい質問をして、発言するチャンスを提供しましょう。でも求道者の中には、どんなことを話しているのかただ聞いているだけでおもしろい、という人もいます。無理矢理話をさせる必要ありません。ただ、言いたいことがあるようなら、発言しやすいように促しましょう。しゃべりすぎる人には「他の人の意見も聞きたいですね」と言ってみたり、「今度はすぐ答えずしばらく考えてみましょう」と言ってから指名してみたりします。どうしても話すぎる人には、後で個人的に話をし、全体の調和を考えてもらうようにしましょう。

聖研に未信者のメンバーが多くて、彼らのペースに巻き込まれてしまい、なかなか信仰について話し合えません。

聖研では、無理矢理信仰的な発言をしたり、毎回救いの証しを披露する必要はありません。聖書を読む中で、そうしたいと思ったらそうするだけです。厳粛な雰囲気を作り出して未信者を疲れさせるよりも、リラックスして聖書についての自由な参加しやすい話し合いにすることが大切です。ですから未信者のペースになっていいのです。言いたいことを言ってもらい、それを聖書にぶつけて一緒に考えていけばいいのです。ただ、聖書を読むことからはずれてはいけません。もし聖研がいつも聖書からはずれて別の話題になってしまうなら、メンバー全体で聖研の目的や方針を確認する必要があります。未信者のメンバーも含めて、聖研は聖書を読むための集まりであることを確かめます。もしかするとそれを契機に聖研から離れる

人もいるかもしれませんが、それは神におまかせしましょう。その人には神の別の導きがあるはずです。私たちはまず、真理を求めて来ている人に、聖書を学べる機会を提供するべきです。

クリスチャンのメンバーが少なく、司会をできる人が限られています。司会者はどうしてもクリスチャンでなければならないのですか。聖書を正しく読んでいくためには、聖霊の導きが必要です。ですから聖霊をいただいているクリスチャンが準備をして司会をした方が、筋が通っています。その原則は変わりません。しかし、司会をしたいと願っている求道者がいて、ある程度の聖書知識があって聖研の準備もできる人の場合は、クリスチャンのメンバーの理解を得て、司会をすることはありうるでしょう。しかしその場合も、その人にすべてをまかせっきりにせず、クリスチャンのメンバーがフォローする心構えが必要です。

司会者は、みことばの本当の意味を追求しようとしている人でなければなりません。自分の思いつきで間違った結論に導くような人であってはいけないのです。同様にクリスチャンも、準備を怠っていい加減な聖書解釈をすることがないようにしましょう。

グループに異端の人が加わりたいと言ってきました。どうしたらいいのでしょうか。

その人が聖研に加わろうとしている目的を、まずきちんと聞きます。聖研のじゃまをしたり、求道者を自分のグループに誘ったりするような人ならば、もう来ないようにハッキリ伝えます。しかし自分のグループの教えに疑いを持ち、真理を求めているような人ならば、クリスチャンのメンバーたちと祈りに覚えつつ、一緒に聖研をすることができるかもしれません。しかし、その人がいることによって、他の求道者を混乱させたり、周囲に誤解を招く恐れもあるので、グループとしての関わりには慎重に結論を出すべきです。聖研に来てもらうのではなく、個人的に聖書の学びをした方がいいかもしれま

せん。主事に相談してみましょう。

最近、聖研はやっているのですが、何となく人が集まらなくなってきました。どうしてなのでしょう。

司会者はきちんと準備をできていますか？ 定刻に始め定刻に終わっていますか？ メンバーにきちんと聖研の連絡を回していますか？ 聖研の内容、難易度、時間、場所は参加者のニーズに合っていますか？ だれかひとりのワンマン聖研になっていませんか？ 聖研の恵みや重荷をメンバー同士で分かち合う機会を最近持ちましたか？ そして何よりも、聖研のためにクリスチャンが祈っているのでしょうか？

聖研をはじめすべての学内活動は、グループの祈りによっていのちを得るものです。祈りを後回しにすると、義務感にしばられた疲れるだけのものになってしまいます。メンバーで聖研のための祈り会を持ってはどうでしょうか。みことばを開いて自分たちが集まっている目的を確認し、聖研に対する正直な感想を分かち合って、主への信仰に基づいた活動を始めましょう。

聖研がマンネリ化して面白くありません。他のメンバーもそう思っているみたいです。

自分たちが主体となって聖書を学ぶためには、グループ聖研はとても有効な方法です。しかしやり方をみんなで熟知しないままだと、かえってつまらないものになるかもしれません。一度聖研のやり方についてメンバーで学びの時間をとってはどうか。この冊子を用いたり、主事に学び会を開いてもらうこともできます。そしてマンネリの理由が何かをお互いに話し合っ、対策を考え、それを実行しましょう。

おもしろい聖研とは以下のようなものと言えるでしょう。

1. 自分の発見がある聖研：自分で新たに気づいて学んだものがある。

2. 自分の納得がある聖研：押しつけられてではなく自分で考えて納得できたものがある。
3. 真実がある聖研：本音で話し合える。神の導きがある。

聖研で発見や納得をするには、それを期待して神に求める思いがメンバーになればなりません。何回も読んだことのある箇所であっても、みことばは生きて働いて、今日新しいことを私たちに教えます。それを信じて聖研に臨みましょう。

グループにクリスチャンの後継者がいません。このままグループはなくなってしまうのでしょうか。

祈りましょう。祈った上でどうしても後継者があらわれない場合は、その後を主に委ねて解散してもいいのではないのでしょうか。働き人は主が与えてくださるものです。主が最善をなしてくださることを信じて、私たちは、グループの存続のみに執着しないようにしましょう。聖研グループのかたちだけを維持するために、未信者の後輩に負担をかけたりすることがないようにしましょう。熱心な求道者には、教会につながるように勧めます。必要ならば神が人を備えて、みこころのときにもう一度グループを起こしてくださることでしょう。

聖研は続けられてもメンバーが少ないというときには、近隣の学校の聖研に応援に来てもらったり、逆に参加させてもらったりしてはどうでしょうか。そのようなときこそ、K G Kのネットワークを用いて励まし合いましょう。

グループの後継者のために祈り始めることは、どんなに早くても早過ぎるということがありません。新年度の活動が始まったときには、次年度のために祈り始めるようにしましょう。そして与えられた後輩に、聖研の理念や方法をしっかり継承してください。

学内に聖研グループを作りたいと思っています。どうやって始めたいのいいのでしょうか。

KGKのすべての活動は祈りから生み出されます。同じ思いをもつ兄弟と出会えるように、必要が満たされて聖研がスタートできるように祈ります。聖研を始めたいことをKGKの友人や主事に話し、同じ学校のクリスチャンがいたら紹介してもらえるようにします。KGKの集会やキャンプに参加することで、出会いがあるかもしれません。実際の聖研のやり方を見るために、他の学校の聖研に参加してみてもいいでしょう。そしてクリスチャンが見つかったらその人と祈り会を始めます。私たちはいつも祈りの中で具体的な行動のために整えられていくのです。そして学校側が許可するなら、構内にポスターを貼ったりチラシを配ったりして宣伝を始めましょう。このとき他の学校の兄弟に手伝ってもらえることもできるでしょう。自分の他はみんな未信者だという場合は、彼らに聖書への関心を与えてくださった神に感謝して、ぜひ勇気をもって伝道聖研を始めてください。一対一で聖書を学ぶことだってできます（少人数での聖研の手引き「ONE TO ONE」（100円）を参考にしてください）。ひとりでは不安な場合でも、最初の数回は主事に司会をしてもらったり、助けを求めてみましょう。

聖研を始めるためにそろえるべきものについては、「3 グループ聖研をするためには何が必要か」を参照してください。その他、KGKの学内活動を理解するための「学生の伝道」（300円）という書物もあります。わからないことがあれば主事が相談にのりますし、何よりもKGKの他のメンバーたちに、このことを祈ってもらいましょう。